

職員新型コロナウイルスワクチン接種の流れ

③相談員（1名）

相談内容の確認

- 相談員は診察医師から相談を受ける。

- ⑤注射業務(看護師5名)
- ⑥誘導業務(事務員1名)
- ⑧回収コーナー(事務員1名)

ワクチン接種

- 看護師は筋肉注射を施行し、ワクチンのロットシールを予診票に貼る。

体調管理室へ誘導

- 接種職員は注射施行後にウケタ君で接種登録をする。
- 誘導職員は体調管理室へ誘導する。(15分間を自己で計る旨を伝える)

体調管理

- 接種職員は103・104会議室で15分間の体調確認を行う。

書類の回収

- 15分の体調確認後、接種職員は予診票を用紙回収コーナーへ提出する。



<https://www.youtube.com/watch?v=tA96CA6fJv8>

待機場所での体調管理

https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000742181.pdf

新型コロナワクチン接種のお知らせ

接種費用
無料
(全額公費)

医療従事者等[※]の方から 新型コロナワクチンの接種が始まります。

※新型コロナウィルス感染症患者(新型コロナウィルス感染症疑い患者を含む)に直接医療を提供する施設の医療従事者等、
新型コロナウィルス感染症患者の搬送に関わる救急隊員等及び患者と接する業務を行う保健所職員等を含む。

◎ご自身が該当するかどうかや、接種方法・接種場所等については、
ご自身の所属機関にてご確認ください。

◎ワクチンを受けるにはご本人の同意が必要であり、強制される
ものではありません。職場や周囲の方などに
強引に勧めたりすることがないようにしてください。



コミナティ[®](ファイザー社)について

特長

- mRNAワクチンという種類のワクチンです。
- 通常、三角筋(上腕の筋肉)に、筋肉内注射という方法で接種します。

有効性

- 新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)による感染症の予防
- ※ワクチンを受けた方が受けていない人よりも、新型コロナウイルス感染症を発症した人が少ないということがわかっていました(接種予防効果は約95%と報告されています。)

安全性

- 次のような症状が現れることがあります。

発現割合	症 状
50%以上	接種部位の痛み、疲労、腫痛
10-50%	筋肉痛、悪寒、関節痛、下痢、発熱、接種部位の腫れ
1-10%	吐き気、嘔吐

コミナティ[®]「薄付文子」より提供

- ・インフルエンザの予防接種等と比べて、痛みが強いと感じる方もいます。
- ・これらの症状の大部分は、接種後数日以内に回復しています。
- ・疲労や関節痛、発熱など、1回目より2回目の方が、軽度が高くなる症状もあります。

○接種後すぐに現れる可能性がある症状について

※アナフィラキシー

- ・薬や食物が体に入ってから、短時間で起こることのあるアレルギー反応です。
- ・じんましんなどの皮膚症状、息苦しさなどの呼吸器症状が、急に起こります。血圧低下や意識レベルの低下(呼びかけに応じない)を伴う場合をアナフィラキシーショックと呼びます。
- ・起こることは極めてまれですが、接種後にもアナフィラキシーが起こっても、すぐに対応が可能で、ワクチンの接種会場や医療機関では、医薬品などの準備をしています。

※血管迷走神経反射

- ・ワクチン接種に対する緊張や、痛みをきっかけに、立ちくらみしたり、血の気が回らなくなることがあります。顔にも起こる可能性があります。体位を変えて、深呼吸を繰り返して回復させます。
- ・倒れてケガをしないように、倒れればのある椅子に座って様子を見てください。

予接種では、接種報告(感染)になったり障害が残りやすくなることなどが起こります。極めてまれではありますが、このことから、接種割合が下げられています。申請に必要な書類などについては、住民票のある自治体の予防接種担当部門にお問い合わせください。

ワクチンを受けた後も、マスクの着用など、感染予防対策の継続をお願いします。

ワクチンを受けた方は、新型コロナウィルス感染症の発症を予防できると期待されていますが、他の方への感染をどの程度予防できるかはまだ分かっていません。また、ワクチン接種が徐々に進んでいく段階では、すでに多くの方が予防接種を受けられるわけではなく、ワクチンを受けた方も受けていない方も、共に社会生活を営んでいくこととなります。

そのため、皆さまに感染予防対策を継続していただくようお願いいたします。

具体的には、「3つの密(密集・密接・密閉)」の回避、マスクの着用、石けんによる手洗い・手指消毒用アルコールによる消毒の励行などをお願いします。

新型コロナワクチンの詳しい情報については、
厚生労働省のホームページをご覧ください。

2021年4月28日

職員の皆様、

感染対策委員会、

新型コロナウイルスワクチン接種後の体調確認について、


新型コロナウイルスワクチン接種後は、副反応が出現する可能性があります。ほとんどの場合は、接種部位の痛みや発赤など数日で軽減されます。しかし、頭痛や発熱などの症状が出現する場合もあるため、皆様の体調を確認させていただき副反応の症状に応じて受診できる体制を整えております。

つきましては、以下の内容をご確認の上、ワクチン接種後、翌日と翌々日の2回体調確認の入力をお願いします。

記、

1. ワクチン接種後の体調入力方法、


○下記のQRコードまたはURLから入力画面に移行する。



新型コロナワクチン接種後の体調管理のURL、

<http://bit.ly/3ry968K>

QRコード、



◎職員番号、接種した日、接種してからの期間を入力し、当てはまる症状を入力し送信する。

3. ワクチン接種回数*

1回目
 2回目

ワクチンを接種した回数を選択。

4. 接種してからの期間

24時間以内
 24時間以上48時間以内

←

接種翌日はこちらを選択

←

接種翌々日はこちらを選択

2. 受診方法、

○土日祝、夜間に受診が必要な場合は救急外来を受診してください。

以上、

待機時間内に確認いただけるように説明文書を渡した。
緊張を緩和するために手洗い5つのタイミングのビデオをながした。

看護師の役割

- 接種者の不安の緩和
- 接種者の体調の変化の確認
- 体調変化のある接種者への対応
- 急変時における急変者及び待機者への対応



接種者の安全と安心の確保

ワクチン接種後の副反応等に対応する医療体制の確保

- 新型コロナワクチン接種後の副反応を疑う症状について、被接種者が受診を希望する際は、まず、身近な医療機関（接種した医療機関や、かかりつけの医療機関等）を受診し、受診した医療機関は、専門的な対応が必要であると判断された場合に専門的な医療機関を紹介。
- 必要に応じて専門的な医療機関に円滑に受診できる体制を確保するため、都道府県は、様々な症状に総合的な対応ができる、専門的な医療機関に協力依頼を行う。

まずは、接種を受けた医療機関や、かかりつけ医等に受診するよう促す。

※ 頻度の高い軽度の副反応は、接種医・かかりつけ医等で対応。

診察の上、さらなる対応が必要な場合、専門的な医療機関を紹介。

